

# ふるさと御所 歴史探訪

## おかげ参り(4)

錢では最高が1000文、最低が1文です。品物では醤油1石(180リットル)、割木4駄(約640kg)から、漬け物少し、菜少しというように、分量や額の幅が非常に広いのが特徴です。人びとは、分相応に身近なものを持ち寄ったようです。

日は、今の暦では4月26日です。このころには、「くき」の寄付が多いのです。くきは、大根や蕪の葉の漬け物で、冬の間の保存食です。その後は、季節に応じた旬の野菜が集中しています。一年中いろいろな野菜が食べられようになったのは、ごく最近のことです。

味噌と砂糖

品物	単位	量	件数	備考
銀・札	分文	1,874	149	※金換算(60匁:1両)
錢	文	6,612	73	※金換算(6,000文:1両)
金	朱	19	11	計 金5兩1分3朱
米	合	22,352	176	うち 白米7斗1升
麦	合	193	8	
餅・餅米			14	こむぎ餅、おかがみ含む
粉類			7	小麦粉、はったい粉等
酒	合	1,870	54	
焼酎	合	150	5	
茶			17	
割木・薪・柴	合	30	101	「あんどん」及び灯明用
油	合	1,900	6	荻之本村から1件1石の寄進
醤油	斤	1.5	7	1斤は約600グラム
味噌			128	
砂糖			44	こんにゃく、豆腐、干し大根等
漬けもの			2	閏3月6日と4月3日
加工食品	食	216	89	ちしや、小松菜等
夕食			104	なすび、きゅうり、なんきん等
菜類			35	小芋、大根、ごぼう等
瓜類			39	ふき、たけのこ等
芋・根菜類			25	大豆、小豆、十八等
山菜類			6	うるめ700尾入り1俵等
豆類			6	和中散(旅の常備薬)等
魚類	服	1,305	14	茶碗、箸、小皿等
薬類			17	
食器等	足本	730	2	
食わらじ		215		
杖				
その他の品物 39件、件数合計 1,194件				

の寄付が少ないのも特徴です。味噌は各家庭で必要量しか造っておらず、砂糖は貴重であったからと考えられます。豆腐やこんにゃくが多いのが、売り物の商品を寄付したのでしょう。その他、

に西日本で通用していた、大きな丁銀と小さな豆板銀がありました。額が決まっておらず、重さを量って「匁」(1匁は3・75g)、その10分の1の「分」で流通していました。銀には現在の紙幣のように紙に刷られた「銀札」が地域限定で流通していました。これらは「銀一匁」等の定額で、大名が発行した「藩札」と寺院や豪商等が発行した「私札」があります。

写真



前回は、文政13年(1830)のおかげ参りについて、食事等の提供は人びとの寄付によって賄われていたこと、寄付の内容が「寄進帳」に詳しく書かれていることを述べました。では、寄付されたのはどんな物だったのでしょうか。

寄付は、町内から669件、近隣の村は523件、他国が2件で合計1194件です。1人で何回も寄付した人がいた一方、村中や町内でまとめたものがあり、寄付をした人数は、この件数を上回ると考えられます。

寄付された品々の概要を表にまとめました。種類が70以上あり、量もまちまちです。米では最高が5石(750kg)で、最低が2合(0・3kg)、

御所町で施行が始まった閏3月4